

本願力

横浜別院だより



【元気なお寺づくり講座 アフターミーティング】

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一丁目十一番

FAXTEL (045) 841-3434
(045) 841-3428
<http://www.yokohama-ootani.com>

雑感 七

輪番 坂田 智亮

過日、台風が十五号十九号と立て続けにやってきた。土地勘のない私は身の処し方が判らぬまま、別院にて独り身を細めじつと通過するのを待った。別院本堂は下り棟に少々の被害が生じたが、別院はともかく、次々と明らかになってくる広域災害、被害の拡大に心が痛み、被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

今年も別院の報恩講を三日間勤めさせていただき、「恭敬讚嘆の心は必ず慙愧懺悔を伴う」このことを憶念しながらの儀式・所作は、私にとって貴重な経験であることは勿論、とにかく気分を含めて重たく達成感と言うより、まだまだ終わりのない通過点と言った方が的確であって、報恩の誠を尽くす声明・儀式・莊嚴も、また、私どものいかなる歩みをもってしても、到達するものではなく、まだまだ充足感の域にないことを痛感させられている。

「報恩講の一日、今日一日の精神をもって三六五日を生きると言うのが、それが増加です。自分が自分になった背

景を知る。それが恩を知るという意味でしょうね」

安田理深

報恩講は、自ら日ごろの心を吟味して存在自身の深い願いに起たしめられ、本願念仏に生きてきた人々に出遇い直し遠く宿縁を慶び、生きることの意味を回復していく。そして、毎年新たな課題を頂戴する仏恩報謝の大切な御仏事であって通過儀礼ではないことは言を俟たない。

蓮如様にご注意くださっている「報恩講の内において信心決定ありて、我人一同に、往生極樂の本意をとげたもう」この「我人一同」この言葉も見逃してはなるまい。

別院は、地方の中心道場としての体裁を整えて、崇敬区域、僧俗一体となった願われるべき報恩講を厳修していくという課題もあって、これから模索しつつ検討すべき余地も残されていると思われるのでご意見を賜りたい。

「心を新たに平和で希望に満ち溢れ誇りある日本の輝かしい未来、人々が美しい心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ時代を作り上げていく為最善の努力」これは天皇即位の儀で首相より発せられた言葉である。スッキリすることとハッキリすることは、よく似た表現であるがその意味は全く異なっている。整理されないまま煩っていることが解消して将来の展望が開け充実感幸福感を覚えることはスッキリで、ハッキリはそれぞれの思惑とは関係なしに物事の道理・真理を正確に理解、展望することであると思う。教化センターではこのところ原発・放射線被爆、また、ハンセン病問題などの課題に目を向けている。豊かさの追いつき求め高度成長をひた走った結果、その豊かさのために一部の人々が犠牲になるという構造が常に避けられない現実の中で、その犠牲に耐えながら生きている人たちの眼差しを意識して決して忘

れないことは大切なことであり、真宗を名乗るもの
の必須条件であると思える。何もかもが、この時代
スツキリすることはあるとしても、ハツキリするこ
とは少なく稀で難しい。
普く諸々の人と共に安楽園に往生せん。

**元気なお寺づくり講座
アフターミーティング（九月三日）
講師 竹原了珠氏（企画調整局参事）**

昨年、神奈川教化センター「元気なお寺
づくり講座」（全五回）が実施され、六カ
寺のお寺が参加して、各寺院事に「寺業計
画書」を作成しました。今回はアフターミー
ティング（一年後の集い）で、それぞれの
寺業計画を振り返り、お互いの進捗を確か
め合い、次へとつなげる講座となりました。
本山・企画調整局より、禿局長、竹原講師、
事務担当小谷氏に来院いただき、まず始め
に、輪番挨拶、禿局長挨拶、小谷氏よりオ
リエンテーションが行われました。その後、
竹原講師より自坊において実施している寺
業計画のお話があり、すでに寺業として実
施できたもの、実施途中のもの、準備段階
のもの、様々な状況であることをお話され、
参加者も同じ
ような状況が
あるのではな
いかという問
いが投げかけ
られた後、今
日のワークに
移りました。
ワークという



→ 竹原了珠氏

ことで、寺院を一つの班として、「寺業計
画の現状とこれから」について話し合いま
した。話し合いの内容は、①取り組めたこ
と（できたこと）②次にやること③三種
類（気づき・発見）④次にやることの三種
類でした。僧侶と門徒がこの一年間のお寺
の現状を振り返り、それを文章化しまとめ
ることで、実施できたもの、途中のもの、
準備段階のものがはっきりと可視化するこ
とができました。ワークの後は、各班事の
振り返りシートをみんなで読んで回り、共
有し合いました。各寺院の進捗状況から多
くの刺激をいただくことになりました。
最後に、竹原講師より「能登で子ども食
堂を綿密に計画して実施し、最初はたくさ
んの子どもたちが集まってきました。しか
し、一年後には人が集まらなくなり、休止
状態となりました。では、なぜこうなって
しまったのかということ、チェック（検証）
の部分が抜けてしまい、アクション（行動）
ばかりに目を向けて
しまった結果である。
つまり、事業をやる
にしても、チェック
の部分疎かにして
はいけないが、チェッ
クを怠りがちになる
ので、今回のミーティ
ングはチェックを中
心に行なったのであ
る。」という総括の
言葉を頂き、終了し
ました
（文責家本）



→ ワークの様子

**特別公開 講演会
（九月十一日）**

**講師 徳田靖之氏（弁護士）
講題「ハンセン病問題と私たちの責任」**

今年の六月末にハンセン病家族訴訟の判決が
出て、注目を集めています。中心となる役割
をしておられる徳田靖之弁護士に大分県より
お越しいただきました。徳田氏は、自身がハン
セン病問題にかかわるようになった経緯からお
話され、本日のテーマとして①家族訴訟の意
義を社会の責任という視点で明らかにするこ
と②ハンセン病隔離政策の歴史から、ハンセン
病に対する差別・偏見の現状を明らかにする
こと、この二点についてお話いただきました。お
話の内容は、TVや新聞などメディアから聞こ
えてこないようなお話ばかりでしたので、参加
者からもいくつか質問がありました。
最後に徳田氏は、「私たちは、家族訴訟から
何を学ぶべきか」という大きな問いを参加者に
投げかけられました。一人ひとりが問い続け
るしかありません。
（文責家本）



→ 徳田靖之氏

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

横浜組門徒会総会（八月二十九日）
講師 小林尚樹氏（東京宗務出張所）
講題 「仏事をご縁として」

横浜組門徒会総会が開催され、二〇一八年度事業報告・決算、二〇一九年事業計画・予算が協議されました。その後、東京宗務出張所の小林尚樹氏による法話がありました。講題「仏事をご縁として」仏教の終活から問われてくることとして、①第四回・第五回エンディング産業展②仏事をつとめるといふこと③「法名」と「終活」④仏の教えに生きる④本山施策「帰敬式法座」⑤東京教区御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている、真のよりどころを求めよう」の五つについてお話いただきました。

まず小林氏は「エンディング産業展に出席するにあたり、エンディングが一つのキーワードであり、超高齢化社会の日本において、人がいのちを終え亡くなっていくことが一つの産業として扱われている現実があり、そこに経済価値があるとしてメディア・企業が目をつけエンディング産業展が行ってわれている。そうした中で、東京宗務出張所としては、簡素化されている真宗仏事の回復を願い、なぜ葬儀をつとめるのか？誰のために葬儀を勤めるのか、葬儀をテーマとして、終活問題に取り組む姿勢を打ち出し、具体的には、一般者向けに模擬葬儀を実演し、葬儀とはどういう場所

あり、どのような意味があるのかを問いかけてきました。また、仏事代行制度や葬儀社向けの研修プログラムの紹介を行いました。つまり、仏事をつとめるといふことは、亡くなつていかれた方を諸仏として出遇うことであり、私たちが南無阿弥陀仏に出遇う場でありませう。」とお話をまとめられました。

「終活」とは、どう死んでゆくかではなく、どう生きて行くのかということであり、仏の教えを聞き続けていくことであると思ひました。（文責家本）

神奈川連合組子ども会 夏のつどい 反省会（十月一日）

湘南組真福寺を会場にして、子ども会スタッフを中心に反省会を行いました。今回の夏のつどいを通して、意見交換を行なうことで、また来年の子ども会に向けてのスタートになります。来年は、横須賀・三浦地域で開催される予定です。



「神奈川四ヶ組行事予定表」

《神奈川四ヶ組》

【横浜親鸞講座二〇一九】全七回

【日時】 第三回 十二月十四日（土）

第四回 一月十一日（土）

第五回 二月十五日（土）

第六回 三月十四日（土）

第七回 四月十八日（土）

※全日程十四時より十六時まで

【講師】海法龍氏（横須賀市・長願寺住職）

【テーマ】人間とは何か！歎異抄に聞く

【会場】崎陽軒ビルヨコハマジャスト

一号館八階（横浜駅よりすぐ）

【参加費】一回千円

《三浦組》

【二〇二〇年寺子屋】

【第一回】

【日時】二月三日（月）午後一時～

【講師】佐賀枝夏文師（大谷大学名誉教授）

【会場】西來寺（横須賀市不入斗町三三八）

【第二回】

【日時】三月四日（水）午後一時～

【講師】狐野秀存師（大谷専修学院院长）

【会場】来福寺（三浦市南下浦町上宮田）

【第三回】

【日時】四月八日（水）午後一時～

【講師】渡邊浩昌師（三重県西願寺前住職）

【会場】浄栄寺（横須賀市吉倉町一三三）

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2019年11月～12月

～どなたもご自由にお参りください～

第2回浜別サンガ（門徒交流会）

－ 節談説教&交流会 －

11月16日（土）午後2時～5時半

参加費1,000円（当日受付）

【節談説教】中村亜由美 師
（福岡県みやま市泰仙寺住職）

※節談説教とは、仏教の教えを聴衆に伝わりやすくするために、話す文句（説教）に抑揚（フシ）が付き、人びとの情念に訴えかけるように工夫されたものがあります。また、講談や落語、浪曲のもとになったものともいわれています。千年の歴史ある伝統芸能をぜひお聞きください。

【交流会】別院内の研修室において、軽食を準備しておりますので、節談説教に続いてご参加ください。

別院声明儀式研修会のご案内

《2019年度第3回声明儀式研修会》

【日時】12月17日（火）

午後1時30分～4時30分

【講師】友松雅英 師（東京2組西岸寺住職）

【講題】「正信偈真四句目下・和讃」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

《2019年度第4回声明儀式研修会》

【日時】2020年2月3日（月）

午前10時30分～午後4時

【講師】鈴木友好 師（本山堂衆）

【講題】「報恩講・拝読文を中心にして」

【参加費】1,000円 ※事前申し込みは不要です。

定例法話 午後1時30分より

11月9日（土）横浜組 智廣寺 橋本 至 師

11月28日（木）別院 輪 番 坂田智亮 師

12月9日（月）横浜組 妙玄寺 池田理道 師

※12月28日の定例法話は休みです

大掃除（同朋の会） 午前10時より

12月18日（水）

年末の大掃除を行ないます。
汚れてもよい服装でお越し下さい。
皆様のご協力よろしくお願ひ致します。
おみがき会と同様に軽食を準備しています。
※11月18日の同朋の会は休みです

東京教区報恩講団体参拝のご案内

【日 時】 2020年1月28日（火）

【集合時間】 9時

【集合場所】 本願寺横浜別院

【行き先】 東本願寺真宗会館（練馬区谷原）

【会 費】 3,000円（昼食、交通費込み）

【定 員】 15名（定員になり次第締め切り）

【交通手段】 マイクロバス（15人乗り予定）

【解散時間】 17時30分

（別院での解散となります）

毎年、別院同朋の会の方を中心にお参りしております。ぜひお気軽にご参加ください。
ご希望の方は別院までご連絡ください
（電話 045-841-3434）

担当：家本

編集後記

今年十月上旬まで気温が三十℃を超える日が続き、その後一気に気温が下がり体調を崩された方が多いのではないのでしょうか。首都圏を通過した台風十五号・十九号は甚大な被害をもたらしました。別院では、本堂の瓦が飛び、雨樋（あまとゆ）が壊れる等、いくつか被害がありました。台風は避けては通れないですが、夏から秋へと季節の移り変わりでもあります。

十月十八日から三日間報恩講が勤まり、今年は団体参拝の寺院一ヶ寺（湘南組正恩寺）があり、大勢の方に参詣いただき、報恩講が勤めると今年も終わったような気になつてしまいましたが、年末まで行事がいくつもありませんので、多数のご参加お待ちしております。おみやげもありません。

（家本）

